

はじめに

令和3年度における主要魚介類の水揚げ状況は、秋サケが統計のある昭和38年度以降最低の453トンとなり、東日本大震災前5ヶ年平均の2%、アワビが81トンで震災前3ヶ年平均の23%、養殖ワカメが1万2千トンで同53%、養殖ホタテガイが2千4百トンで同38%に止まっています。また、震災後は麻痺性貝毒が広域かつ長期間発生するなど、水産業はこれまで経験したことがないような問題に直面しています。

このような中、当センターでは、秋サケの不漁対策として環境変化に対応した飼育放流技術の開発、漁業生産に影響を与える海況変動に関する研究、アワビ・ウニ等の増殖に向けた餌料海藻造成手法の検討、ドローンによる海藻現存量把握手法の検討、経済効果の高いアワビ資源管理手法の検討、成熟抑制技術を用いたウニ出荷延長手法の検討、ホタテガイに比べて高水温に強いアサリの養殖技術開発、水揚げ量が増えているマイワシの加工品開発やサワラの高鮮度流通試験、麻痺性貝毒で毒化した介類の低毒化技術の開発などに取り組み、着実に成果を収めることができました。

また、令和3年度は、漁業担い手の核となる、「いわて水産アカデミー」第3期生全員が県内に就業するなど、明るい話題もありました。

試験研究は、長期的にデータを収集しなければ対策を導けないものがある一方、短期間で成果が得られるものもありますので、これまで以上にスピード感を持って研究に取り組み、成果はタイムリーに現場で普及していきます。

今後も現場のニーズを的確に捉え、岩手県の水産業が発展するための試験研究を進めることとしておりますので、引き続き御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年8月21日

岩手県水産技術センター所長
神 康俊